中野区立令和小学校

自他を大切にし、共によりよく生きようとする児童
～たのしい道徳の授業を中心として～

道徳授業の軸（ねらいと評価に沿った発問構成）

教師の姿勢・構え
「待つ」「聴く」「受け止める」

学級の雰囲気作り
「互いに語り合える」
「互いに聴き合える」

主　題　名

ねらいとする道徳的価値（価値観）

本時のねらい

授業の出口

◆ねらいとする価値（価値観）
・人間がよりよく生きていく上で、またよりよい社会生活を営む上で、どのような意味や意義があるのか
・この道徳的価値はどのようにしたら身に付き実現するのか

導入

・ねらいとする道徳的価値への意識を喚起（問題意識をもつ導入）
・教材への導入（主となる教材への結びつけ）
・学習への意欲付け、雰囲気作り
【導入の具体例】
・児童に自らの生活経験を想起させる
・事前のアンケート結果を提示する
・主となる教材に関する写真、絵、品物等を提示する
・新聞記事や作文等を提示する
・文科省「わたしたちの道徳」東京都教材集の活用
・歌を歌う　等

22分

一貫性・整合性

◆教材（教材の三要素…合目性・誘意性・一般性）
・合目性…ねらいに合っている
・誘意性…興味関心がもてる
・一般性…分かりやすい

全力！教材提示

展開

・教材に即して話し合う・基本発問２～３（含中心発問）

展開前段
・主となる教材によってねらいとする道徳的価値を追求、把握させる段階
・この部分が授業の中心
・中心発問はここにあるのが普通

中　心　発　問

評　価

軟骨（なんこつ）

・自分自身を見つめる

展開後段
・児童一人一人が、ねらいとする道徳的価値を特に自分の生き方の中の課題と結びつけて考えを深める段階
・前段からの思考を分断しない
・児童が思わず自己開示してしまうような雰囲気が、児童の自己受容を促すことにつながる

振り返りの発問

★児童が語れるようにする
★たっぷり時間をとる

評　価

◆基本発問（中心発問を生かすための発問）
・それぞれの基本発問が、中心発問とどうつながるのかを考えながら構成を考える

◆中心発問（ねらいに直結）
・ねらいに最も迫る部分であり、道徳的価値に関する児童の考えや思いが深く表出されることが期待できる部分を「中心発問」とする

◆軟骨（展開前段と展開後段のつなぎ）
・前段とのつながりを大切にする部分。児童が自然に自分自身の振り返りができるようなつなぎやつなぎの言葉を意識する

◆評価
・主に中心発問に対する児童の反応、振り返りの段階の児童の反応等から評価する
評価の視点
①道徳的諸価値の理解の状況や様子
（価値理解・人間理解・他者理解）
②自己を見つめる状況や様子
★③物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えている状況や様子
★④自己の（人間としての）生き方についての考えを深めている状況や様子

重視(1)他者の考えや議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多角的・多面的な見方へ変化している
重視(2)多面的・多角的な思考の中で道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている

終末

・ねらいとする道徳的価値を深く心に刻ませる
・学習意欲が自然と湧いてくるように促す（次の授業への期待）
【終末の具体例】
・教師の説話　・補助資料等の活用
・児童の発言を取り上げ、ねらいに結びつける

◆振り返り
・ねらいとする道徳的価値の自覚化を図る（広げる・深める）

広げられたか？深められたか？　児童一人一人が「自分のよりよく」を得られる授業
（過去・現在・未来）